

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (投稿論文) Effects of vitamin C and E on toxic action of alcohol on partial hepatectomy-induced liver regeneration in rats (ラットにおける部分肝切除誘発肝再生に対するアルコールの毒性作用に対するビタミンCおよびEの影響)	共著	2018年7月	Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition 63, p.50-57	ラットの肝再生におけるアルコールの毒性作用に対するビタミンCおよびEの影響を検討した。ビタミンCおよびEは、肝障害および機能不全から保護し、脂質過酸化を減弱させ、肝臓再生中のアルコール媒介性毒性作用に対してビタミン単独よりも有効に併用することができる。 Yurika Okamura, Akira Omori, Norihiko Asada and Akifumi Ono 研究計画、実施、データ解析、発表 担当
2 (投稿論文) Evaluation of the Effects of Frequent Alcohol Administration on Liver Function in Partially Hepatectomized Rats: Serum Changes	共著	2018年8月	Kawasaki Journal of Medical Welfare Vol.24 No.1. p17-25	肝切除後の長期間にわたる飲酒がより大きな不可逆的損傷を与える影響について生化学的変化により示した。肝切除後の残存肝の機能は元のレベルに戻らないことが結論づけられた。 Yurika Okamura, Hisami Ono and Akifumi Ono 研究計画、実施、データ解析、発表 担当
3 (報告・発表) Xanthine oxidase および xanthine dehydrogenase のサーカディアンリズムにおける要因の検討	共著	2019年11月	第29回 医療薬学会(日本医療薬学会)	Xanthine oxidase (XO) および xanthine dehydrogenase (XDH) は尿酸代謝および薬物代謝にも関与することが知られている。我々は in vivo において夜間に XO および XDH 活性の上昇、in vitro において低下することを報告している。この要因として、血清成分が影響を及ぼしていると仮定し、cytosol 画分における XO 活性、XDH 活性に及ぼす血清の影響を検討した。XO および XDH のいずれの酵素活性にも血清添加の影響は認められなかった。 (喜多 智生, 西村 さとみ, 田山 剛崇, 岡村 友理香, 大松 秀明, 覚前 美希, 前田 志津子, 佐和 章弘, 三宅 勝志) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
4 (報告・発表) 野菜の食形態および摂取するタイミングの違いが食後血糖上昇に与える影響	共著	2020年1月	第23回 日本病態栄養学会 学術総会 S-16	野菜の食形態と摂取するタイミングの違いが食後血統上昇に与える影響を検討した。食事の中の野菜を先に食べることによって食後の血糖の緩やかな上昇やピーク値に至るまでの時間を遅らせる可能性が示唆された。また野菜を全て食べることよりも半量ずつ分割して食べた場合の方が糖の吸収を抑制する可能性が推察された。 (大森聡, 岡村友理香, 小野章史) 共同研究につきデータ統計処理を担当
5 (報告・発表) ラットにおける肝臓および血漿中 Xanthine oxidoreductase の活性とたんぱく発現に及ぼす概日リズムの影響	共著	2022年3月	日本薬学会第142年会	ラット血漿画分および肝 cytosol 画分を用いて、XOR(XO と XDH)活性およびそのタンパク質発現における概日リズムを検討した。ラット肝 XOR 活性の日内変動は、タンパク質発現による起因が考えられた。また、肝 cytosol 画分の XOR 活性は日内変動を示したことから、XOR 代謝を受ける医薬品体内動態は、血漿中よりも肝 XOR 活性の日内変動を反映する可能性が示唆された。 (田山剛崇, 前田志津子, 田邊建志, 岡村友理香, 杉原和美, 三宅 勝志) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能